
ひきこもりの異世界探索記

さばんな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひきこもりの異世界探索記

【Nコード】

N4369Z

【作者名】

さばんな

【あらすじ】

異世界なんていいもんじゃないね。少なくともなじみ深い元の世界の方がいい。

たとえば、俺がひきこもりでもだ。

これはひきこもりの異世界譚。

異世界でもひきこもるのか？ それとも何かを成し、ひきこもりの不名誉を脱せるか？！

「俺は、こうやって諦めてきただろう？」

「最後までできたことなんて無かった」

「らしくない、諦めたらどうだ？」

「やめとけやめとけ、どうせ途中で終わりだ」

囁く自分の心の闇。

ひきこもりは、打ち勝てるのか。

「もう、諦めたく、ないんだ！」

まよひしみ（前書き）

よくある例のアレです。

まよいじみ

俺は、ひきこもりである。

一年近く部屋から出てなかったし、この先出ることも数える程しかないと思っていた、のだが。

「どこだよ、ここ……」

ずり落ちてくる眼鏡をくい、と押し上げながら、周りを見渡す。

「森……」

青々しい木々に、暖かな日差し。森だと思う。まあ別に森でなくともよい。問題は、部屋にいたら何時の間にか外にいたということだ。

「訳が、わからん」

口に出したところで、何も変わりはず。依然として色彩豊かな植物が我こそは光を浴びんと競い合っていた。

そつえば明るい。確か深夜だったはずだが、と思い返す。

「夢か」

そつ結論づけて、考えるのをやめた。

二十歳の誕生日のことであった。

光の中で

考えるのをやめたところで何かが変わるわけでもなく。青年、もとい、天津悠斗あまつ ゆうとはすることもない。

開けた場所で草の上に座り込み、降り注ぐ光の中、こっくりこっくりと船を漕いでいた。

あたりは静かである。ちちち、ぴーちちち、と鳥が鳴く。

それを子守唄に、意識を手放そうとしていた悠斗の頭に、ぼと、と何か落ちてきた。花であった。

綺麗だな、そこらの木のものかな、と寝ぼけまなこで空を見上げる。

ぼと、ぼと。

鳥が花をくわえては落とす。またひとつ。どこからか飛んできては、ひとつひとつ悠斗の周りに落としていく。まるで祝福されているようだ。

まあ夢だしな、なんでもありか。そう思い、目を閉じる悠斗。日の光が暖かく、微かな花の匂いが鼻をくすぐる。

安らぐ。

夢なのが勿体無いな、と思ったのを最後に、意識は薄れていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4369z/>

ひきこもりの異世界探索記

2011年12月15日01時47分発行